



細田守の映画の世界

『時をかける少女』『サマーウォーズ』
『おおかみこどもの雨と雪』で有名な細田守監督の新作
『バケモノの子』が只今公開中です。

以前より細田守作品ファンの私は、
先日早速見に行ってきました。

今回の作品も映像がとても力強く綺麗で、
とてもあたたかい気持ちになれる細田守さんらしい作品でした。

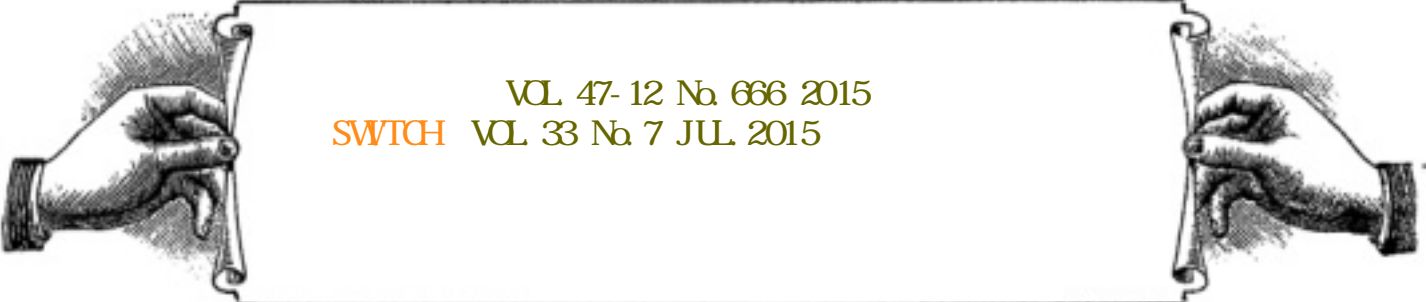
細田守さんの作品はどれも、とても壮大で
なによりも色、キャラクターの表情、動き、線に
わたしはいつも惹かれます。

そんな細田守さんの映画作品の世界を
今月はのぞいてみることにします。

いちばん注目したいのは**絵コンテ**。細田守さんは、
絵コンテを100%ひとりで書くのだそうです。画面構成、
カメラワーク、キャラクターの表情や動き、シーンの雰囲気
など、演出のすべてが緻密にかき込まれた絵コンテ。細田守さん
の絵コンテは、絵もセリフも音響の指示もとても細かく、また
ダイナミックで（コマからはみ出すほど！）絵コンテを
見ているだけで、細田守さんの声がいまにも聞こえてきそうな
ほどです。この力強い絵コンテこそが、あの躍動感あふれる
壮大な映画の素なのだ実感できました。

また、もうひとつ注目したいのが、細田守作品の
タイトルロゴってすべてゴシック体なのだそうです。
みなさん知ってました？それは、細田さんが描くテーマが
いつも家族性やコミュニティのあり方で統一されており、
それをタイトルに落とし込むと、ロゴの形もおのずと
統一感が出るのだそうです。そこに奇をてらったりする必要は
ないのだそうです。また、**タイトルの色**も
白あるいは黄色で統一されています。これは、多くのひとに
わかりやすく、力強く伝えるのに適した色だからなのだそうです。
また、白、黄色は、これも細田守監督作品に共通した点、「空」
に映える色なのだそうです。確かに、細田守監督作品は
真っ青な空と自然が印象的です！

こうしたいろんな観点の工夫ひとつひとつが細田守監督作品の
魅力であり、世界なのです。ここにあげたこと以外にも細田守の
映画の魅力はたくさんあります。知れば知るほど、
ますます細田監督作品の虜になりそうです



『ユリイカ』VOL.47-12 No.666 2015 9月臨時増刊号 青土社
『SWITCH』VOL.33 No.7 JUL.2015 スイッチパブリッシング
『アニメは逆境する（日本映画は生きている第6巻）』
黒沢清 共編 岩波書店

